

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年 3月 1日

事業所名： 放課後等デイサービス マザーズ新田塚

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○				
	2	職員の配置数は適切である	○			法令に基づいた配置を毎日確認している	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○			室内には段差は無いが、玄関前に段差あり。手すりは無し
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○				
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			イベント等でアンケートを実施した際には、アンケート集計結果を玄関に掲示し周知している	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			毎年ホームページに公開している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		
適切 な 支 援 の 提 供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			定期的な社内研修はもちろんのこと、外部からの講師による研修や外部研修にも参加を促している	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○				
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			各担当を中心に終礼等で意見交換をしている。また、3～4か月毎に担当を交代していき満遍なくプログラムへの知識を伸ばしている	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年 3月 1日

事業所名： 放課後等デイサービス マザーズ新田塚

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な 支援の 提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			毎月の予定表に偏りが無いよう配慮している	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			外出や体験活動等、平日に出来ないことを長期休暇時に行うよう計画している	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			朝礼時に活動内容と特性に応じた体制を共有している	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			終礼時にヒヤリハットや児童の様子、保護者対応等を共有している	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			Bridgeに個々の支援目標に対する支援と当日の様子を記載している	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			定期的に保護者面談を実施し、ニーズの共有と社員からの意見を踏まえ計画を更新している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○				
関係 機関 や保 護者 との 連 携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			児童発達支援管理責任者は必ず参加している	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			日々の送迎時や定期的なケース会議での場で情報共有を図っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○			現状医療的ケア児童の受け入れは無いが、必要があれば体制を整える。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年 3月 1日

事業所名： 放課後等デイサービス マザーズ新田塚

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者 との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、 認定こども園、児童発達支援事業所等と の間で情報共有と相互理解に努めている	○			移行支援会議の開催を促し、児 童発達支援管理責任者が参加し ている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事 業所から障害福祉サービス事業所等へ移 行する場合、それまでの支援内容等の情 報を提供する等している	○				現在は対象者無し。必要な状況があれ ば、都度対応していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援 センター等の専門機関と連携し、助言や 研修を受けている		○			ケース会議で連携する機会はあるが、 研修や助言は無し。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、 障がいのない子どもと活動する機会があ る		○			児童クラブや児童館との交流は無い が、イベント開催の際には一般参加も 募ることがある。今後は児童クラブ等 との交流イベントを検討していく。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参 加している			○		連絡協議会への情報収集と参加を検討 する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について 共通理解を持っている	○			送迎時やBridgeを通して、情報 共有や共通理解する機会、体制 を整えている	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、 保護者に対してペアレント・トレーニング 等の支援を行っている	○			保護者が参加できるイベントの 開催や日々事業所で行っている 支援方法や視覚ツールを共有し ている	
保護者 への説明 責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等に ついて丁寧な説明を行っている	○			契約時に必ず説明をしている	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相 談に適切に応じ、必要な助言と支援を 行っている	○			その場で対応出来れば即対応。 難しければ、職員間で共有し後 日返答している	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会 等を開催する等により、保護者同士の連 携を支援している	○			定期的な保護者会を開催した り、保護者参加可とするイベン トを開催している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対 応の体制を整備するとともに、子どもや 保護者に周知し、苦情があった場合に迅 速かつ適切に対応している	○				

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年 3月 1日

事業所名： 放課後等デイサービス マザーズ新田塚

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			毎週のブログ更新やマザーズ新聞といった紙面で発信している	
	35	個人情報に十分注意している	○			鍵付きキャビネット内に保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			視覚支援や文字化するなど特性に配慮した情報共有をしている	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○			イベント開催時に一般参加を募ることもあるが、実際には地域住民の方からの参加はない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			契約時にマニュアル集として配布している	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			2か月に1回避難訓練を実施し、記録を残している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			外部講師による研修会や社内での定期的な研修、その他外部での研修にも参加している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			現在、事業所内には該当児童は無し。法人として身体適正化委員会の設置、該当事業所があれば委員長を中心に都度会議を開催している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			契約時や日々保護者との情報共有をもとに、職員間でも共有している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				